

## 裏妙義・木戸壁右カンテ

彷徨倶楽部 安齋恭一

松井田妙義 IC で下り、一般道を約 6km、20 分ほどで国民宿舎裏妙義に着く。駐車場は裏の一段高いテニスコートを指示された。国民宿舎前から林道を数分歩き、丁須の頭への道標に導かれ登山道に入る。しばらく歩くと箆沢に沿った道となり、右手には紅葉の灌木越しに壁が間近になる。右から流れ込む木戸前ルンゼを過ぎると、やがて正面の岩に左向きと下向きの黄色い矢印が見える。これが木戸壁だ。左は登山道で鎖が見える。右は岩の基部が大きな横長の祠となっている。その先まで進むと、真新しいペツルが打ってある。その上にも 2 本のペツルが見える。ここで間違いない。国民宿舎からは約 30 分。

不要な荷をデポし、アンザイレンして登攀開始。最初に見上げたときは簡単そうに見えたが、実際に取り付くとなかなか良いホールド、スタンスが得がたい部分があり、草は剥がれやすく予想以上に不安定だ。此処の岩は、壁に石を思い思いの深さにめり込ませたような黒い独特なホールドで、掴み難い物、掴みやすいが強度に不安があるものなど、なかなか癖がある。八海山の岩峰や八ヶ岳の地獄谷を思い起こさせる。微妙に被っている部分ではペツルがべた打ちだが省く気はしない、距離の割にはヌンチャクを多用し数が必要となるが心理的な不安がかなり軽減される。こぶホールドは強度的な問題が無ければフリクションはなかなか良く、慣れてくれば快適に思えてくる。見下ろせば高度感も申し分ない。ハーネスのトラブルがあり、ペツルが無くなる松ノ木の上までで終了とした。

一応ハーケンも持参したが、リスがほとんど見当たらず、役に立つとは思えなかった。懸垂はこぶこぶのホールドと、枯れたイワヒバの出っ張りにロープが引っかからないよう細心の注意を払った。おかげでトラブル無く着地できた。このルートは記録は少なく、トポと日本登山体系のルートには二つの違いがある、一つは取り付きで、登山体系では横長の祠の左から取り付き、30m のトラバースをしている。また松ノ木の上は、トポは左だが登山体系ではカンテを右に回り込んでいる。まあしかし、好きにルートを取ればよいと思う。



被った壁を攀る（2ピッチ目）

帰りは国民宿舎で貸し切りの風呂に入り、関越の嵐山小川 IC で降りて小川町の老舗「二葉」に行く。この辺りでは名の知れた高級割烹旅館で、忠七飯と女郎うなぎが有名なのだが、私には木戸壁以上に敷居が高く、入ったことが無かった。しかし今日は秋田さんとのアンザイレンで安心して敷居を乗り越え、美味しいうなぎをご馳走になった。怪しい風体の二人組みにも、仲居さんは親切だった。

妙義は初めてなのだが、色々調べると岩稜の登山道や短い沢などが沢山あり、あのこぶこぶホールドが嫌でなければ、面白いエリアかもしれないと思い始めている。

日 程：2011 年 11 月 5 日（土）曇り

メンバー：秋田誠、安齋恭一

タイム：駐車場 6：30—木戸壁取り付き 7：00～7：30—終了点 9：40—取り付き 10：30—  
駐車場 11：10